

## 令和元年度 八尾隣保館 事業報告

### 1.事業の継続性及び運営の透明性

- ・ 理事会を3回、評議員会を1回開催し、法人の運営等について審議、報告した。
- ・ 施設長会議および主任会議を計10回開催し、法人の事業運営等について協議をおこなった。
- ・ 行政・法人ホームページおよび全国社会福祉法人経営者協議会ホームページ上に平成30年度法人決算書類を公開した。また、各事業所の行事報告等を法人ホームページ・SNSより随時発信を行った。
- ・ 防災マニュアルの見直しを行った。職員連絡方法はSNSを活用、備蓄品等の確認、購入した。

### 2.人材の確保と育成

- ・ 人材の確保として各種求人サイトや人材紹介、学校訪問等を通して介護職員10名、保育教諭9名、看護師3名、調理員5名、その他非常勤職員12名を採用した。また、令和2年4月入職者として介護職員2名、保育教諭2名、調理員1名を採用した。
- ・ 4月にベトナム人留学生2名が来日し、特別養護老人ホーム成法苑にてアルバイトをしながら日本語学校へ通学している。また、平成30年度入国者1名については介護養成校への入学が決定した。
- ・ 階層別内部研修として主に「SDGs」について、また人権研修として「職場のパワーハラスメント対策」について研修をおこなった。その他外部研修に職員を派遣した。
- ・ 今年度より人事考課制度を改正中で、現在等級・人事制度設計の見直しを行っている。

### 3.地域公益事業

- ・ 社会貢献事業として13件の相談を受け、内3件に対し計112,462円の経済的支援を行った。
- ・ スマイルサポーター事業として2園合わせて計16件の相談を受けた。
- ・ 学習支援事業として八尾市内の中学生計14名に対し支援を行った。
- ・ 中間的就労事業として法人内事業所に4名の受け入れを行った。
- ・ 保健センターとの連携事業として年4回コミセンに保育教諭を派遣し、延28組の親子に親子の触れ合い遊びを提供した。
- ・ 地域子育てサークル支援事業として計5回サテライトホームの部屋を使用いただいた。
- ・ 八尾市ひとり親家庭支援ネットワーク事業としてデイキャンプを行いひとり親家庭5世帯が参加された。
- ・ 介護者リフレッシュ旅行として11月に愛知県へ出掛け、在宅介護者7名にご参加いただいた。
- ・ 住宅確保要配慮者居住支援事業として、36件の相談を受け対応した。

## 令和元年度 キリンこども園・キリン第二こども園 事業報告

<b>1.利用者支援の充実</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 一時保育事業は一度利用するとその後、定期的にご利用があり定着した。休日保育は減少傾向にある。</li><li>・ 延長保育では、19時半以降の利用は減少傾向にあり、保護者の働き方にも変化があるように感じた。</li><li>・ 障がい児保育では、児童デイを利用する園児の個別支援も行い八尾市医療型支援センターとの訪問支援を行った。(キリン第二)</li><li>・ 体調不良児保育は、教育・保育中の体調不良や怪我に看護師が対応する事により、保護者の安心につながった。</li><li>・ 乳幼児突然死症候群(SIDS)の対策として、午睡チェックセンサーを導入し、機器と人の目で予防を行い、安心安全を確保した。</li></ul>
<b>2.人材育成と環境づくり</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ キャリアアップ研修など施設外での研修に積極的に参加し、教育・保育の専門性を高めると共に、内部研修も行い、施設内全体での専門性の向上に努めた。</li><li>・ ICT 機器を取り入れ、総合保育業務支援システムを導入し、書類作成をスムーズに行うと共に業務の省力化ができた。</li><li>・ 委員会活動も随時会議を開き、子ども達が安全に健やかに生活出来る様に施設内の環境を整えた。</li><li>・ ボランティア(中学生3名)やアルバイトを受け入れた。</li><li>・ 実習生については後期に数名受け入れ、今後、学校へのアプローチ等含め採用に繋がるように努めた。</li></ul>
<b>3.地域とのつながりと共生</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 園庭開放、地域交流に参加した保護者に、居場所作りの場として「いざよい」・子育てサロンを提供し、親子の抱える悩みの相談に応じた。また、一時保育や保育サービスの情報提供をした。</li><li>・ 保健センターとの連携事業(曙川コミュニティセンターにて乳児相談)を行い、保護者の悩みや子どもの発育について情報提供した。(年4回)(キリン)</li><li>・ 地域との交流では、高齢者施設や中高生との体験で多くの交流を持った。</li><li>・ スマイルサポーターによる相談業務を積極的に行い、必要に応じて関係機関との連携に努めた。</li></ul>
<b>4.時代が必要とするサービスの創造</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子育て親子の交流の場になる様に、食育体験講座を行う。母親のみならず父親の参加もあり、父親が育児に対して協力する姿も見られた。(キリン)</li></ul>

## 令和元年度 ルフレ八尾事業報告

### 1.利用者支援の充実

- ・ LINEを活用して悩みや相談の支援をしてアフターケアの充実を図った。登録者数の増加も見られ、施設からも制度等様々な情報発信を実施した。後期には退居者の集いである「マザーリーフ」を実施した。
- ・ 平成 15 年 8 月から地域のひとり親等に対しての電話相談を実施しており、様々な悩みや相談に対応していた。しかし、今年度は母子部会のホームページに電話番号を掲載したことや、コロナウイルスの影響もあり、相談件数が増加した。
- ・ 心理的な支援を必要とする利用者に対し専門家による心理相談、プレイセラピーを実施した。また、心理士が学習室に行き、子どもと遊びを通して関わることで、より子どものことを理解しカウンセリングの質を高めるよう努めた。

### 2.人材育成と環境づくり

- ・ 大学教授による勉強会を行い支援スキル向上に努めた。また、子ども家庭センター職員による SST(社会生活技能訓練)研修も行い、自尊感情や自己肯定感を高めるためのスキルを学んだ。今後も継続して研修を行っていく。
- ・ 外部研修に積極的に参加し、援助技術研修やメンタルヘルスについての学びを深めた。また、共通理解ができるよう会議で研修報告を行い、職員一人ひとりの専門性及び資質向上に努めた。
- ・ 各種委員会の活動を通して、施設の環境整備や入居者への啓発活動、また、職員に対してヒヤリハットの周知等を積極的に行った。

### 3.地域とのつながりと共生

- ・ 自治会等への活動に積極的に協力・参加をして地域交流を深めた。また、地域のひとり親等の様々なニーズに対しても、施設の機能を活かした福祉サービスを提供した。
- ・ 学習支援と並行して、家庭内の課題に対しても関わりを深め、関係機関と連携しながら支援を進めた。

### 4.時代が必要とするサービスの創造

- ・ 各関係機関と連携して、親子関係再構築を図った。
- ・ 妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を提供した。また、単身妊婦を一時保護から受け入れ、出産を経て入居に繋げることができた。

### 5.事業の継続性及び運営の透明性

- ・ 小・中学校との連絡会を定期的に行い、母子の情報共有や連携した支援を行った。
- ・ 3 月 1 日時点で入居の充足率は 96.3%であった。

## 令和元年度 特別養護老人ホーム成法苑事業報告

### 1.専門性が高いサービスの提供

- ・ 個別機能訓練で個々に応じたプログラムを作り、楽しみながらできるリハビリを行った。
- ・ 外出では、ご利用者の希望に沿った場所で楽しめるよう努めた。
- ・ 当施設の排泄委員を中心に排泄表の見直しを排泄用品の企業と連携し、各々の利用者に最適な用品を導入できる検討会や排泄ケアの適正を考える研修を実施し利用者サービスの質を高めた。
- ・ 歯科衛生士とSTの定期的な指導、助言による内部研修の充実、食事形態の見直しと口腔ケアの充実、DVDを使用した口腔体操、口周辺、首、肩のマッサージを習慣化し誤嚥性肺炎の予防に努めた。
- ・ 職員が希望した研修に派遣し専門の資格を取得させ、サービスの質の向上を図った。
- ・ 多床室に間仕切り家具を導入し準個室化を図った。

### 2.人材育成と環境づくり

- ・ 移乗用道具の知識や活用技術の研修を少人数で、数多く実践することで、使用する際の不安の解消に繋がった。移乗リフトのデモ機を使った実践等を通じて、介護の負担軽減を体験し福祉機器の活用促進を図った。
- ・ 介護専門学校学生のフィールドワークの受け入れ人材育成に努めた。
- ・ 法人の資格助成金制度を活用し、介護福祉士、社会福祉士の資格者を養成した。
- ・ 介護士、看護師のタイムスケジュールや業務を見直し、職員間の連携、協働の円滑化、安全と業務の効率化を図った。
- ・ ベトナム人留学生と頻繁な話し合いを通じて、業務内容の確認と共に個々人が抱える悩みに寄り添う努力をした。

### 3.地域とのつながりと共生

- ・ 定期的に各ボランティアの方々と情報交換をおこない施設との連携を図った。
- ・ 大正琴、三味線のボランティアの定期演奏会を通して地域の交流に努めた。
- ・ 同敷地内のこども園との交流会を実施し実習生も参加することで、利用者が世代間の交流を楽しめる機会を得た。
- ・ 地域包括支援センターと共同で出張デパートを実施。入居者と家族、地域の方が買い物を通じた交流が図れた。
- ・ 災害時相互応援協定作業部会へ参加し地域の施設との協力体制に努めた。
- ・ 地域の自治会に参加し、意見交換をして情報を共有し地域とのつながりを強めた。

## 令和元年度 特別養護老人ホーム第二成法苑つむぎ事業報告

### 1.専門性が高いサービスの提供

- ・ ユニットリーダー研修に2名受講し、改めて「ユニットとは」を課題とする。24時間シートの大切さ・必要性を職員に伝え入居者の生活の質の向上に努めた。
- ・ 食事に関して、「湯気が出たまま提供」を厨房職員がこだわり、実践した。直前調理で温める「ライブキッチン方式」にて提供した。
- ・ 排泄委員会を立ち上げ、24時間の排泄表を個別に作成し排泄・排便パターンを把握し、定時交換より随時交換に切り替え、不快感の軽減に努めた。また、排泄チェッカーも活用した。
- ・ 個別機能訓練室を作り、リハビリ器具の購入で個別機能訓練の充実を図った。目標、目的を掲げた機能訓練を行うことで、楽しみ、やりがいの一環になった。

### 2.人材育成と環境づくり

- ・ 専門的技術の内部研修、外部講師を招いての研修を行い、より実践に近い内容で行うことにより職員一人一人の技術の底上げに努めた。
- ・ 「LINE WORKS」を活用し各部署との連携だけでなく、自ユニット内の伝言板機能を活用し、昨年度以上に活用・周知徹底しペーパーレス化を行った。
- ・ 3か月に一度、「施設内居酒屋T'sガーデン」をオープンし職員、職員家族と一緒に楽しめる空間を作り一体感の醸成に繋げた。

### 3.地域とのつながりと共生

- ・ 地域の自治会の「ふれあい会」で介護に関する相談や情報を提供しその中で、Kids主催の「燈籠ナイト」に多数参加頂き交流を図った。
- ・ 地域のパン屋の訪問は、継続して行った。
- ・ 傾聴ボランティア・折り紙教室など多種のボランティアを利用し利用者の楽しみと施設認知度の向上に努めた。

## 令和元年度 養護老人ホーム心合寮事業報告

### 1.専門性が高いサービスの提供

- ・ 利用者ニーズや状態にあった個別支援計画の充実を目指し、職員のグループミーティングを活用し、個々の能力や特性を発揮できるように支援した。
- ・ 入居者の認知症への理解を場面ごとに求め、助け合い意識の向上に努めた。
- ・ 警察や役所からの緊急一時保護に対応し、支援継続のため5件入居になった。
- ・ 新たにおにぎり、パン朝食やおやつのバイキングを計5回実施し、食事の楽しみが増えた。

### 2.人材育成と環境づくり

- ・ 虐待対応や人権意識の啓発に努め、各種研修に参加した職員が職場でフィードバックを行った。
- ・ 常勤、非常勤の業務の分析、見直しを行い、業務の生産性に努めた。
- ・ 認知症実践者研修を受講し、事例検討での相互学習を実施し、認知症ケアの向上につながった。

### 3.地域とのつながりと共生

- ・ 心待ちカフェの介護予防ポイント事業の参加者をはじめ、ボランティア受け入れや、地域高齢者の認知症・介護予防に取り組んだ。また、法人内のこども園との交流や訪問を含め次世代交流に努めた。
- ・ 地域高齢者を行事に招待したり、民生委員集会に参加したり、各種団体と顔の見える関係づくりに努めた。

### 4.時代が必要とするサービスの創造

- ・ 施設農園の開放を地区民生委員や掲示ポスターでよびかけた。後期より地域高齢者1人週2回参加。園芸クラブで収穫した野菜は、食事材料やおやつとなり、梅酒づくりも入居者や地域の人のいきがい作りや楽しみにつながり、行事を通して喜んで頂けた。

### 5.施設の継続性及び運営の透明性

- ・ 福祉実習生や小中学校教諭の体験学習など受け入れた。
- ・ 施設行事の地域への招待など、風通しの良い施設となるように努めた。
- ・ 指定管理施設として設備機器の老朽等に伴い八尾市と連携し、速やかに購入や修繕を実施した。